

## 平成 27 年度フォローアップ結果への対応状況

機関名	電気通信大学				
統括責任者	役職	学長	実施責任者	部署名・役職	理事（研究戦略担当）
	氏名	福田 喬		氏名	三橋 渉

## 平成 27 年度フォローアップ結果

評点区分：順調に進んでいる

## 全体を通じた所見

- 「小さくても光る大学」を目指し、学長のリーダーシップの下、組織の機動力を活かした取組が展開されつつある。
- 研究推進機構の設置により、全学協働体制で研究支援等を実施する体制を構築し、「ネットワーク型 URA」として、チーム制による URA 制度の定着化を順調に進めていることが確認された。今後、これらを通じた成果の創出を期待したい。

## 特に優れた点

- URA の活動方針を策定し、様々なネットワークを活用して、「つなぐ」機能により、新たな価値の創造を目指す「ネットワーク型 URA」として位置付け、URA のスキルアップのための体系的な研修システムを構築するとともに、他機関の URA との連携、「首都圏 URA バンク構想」など、独自の様々な組織的展開を進めており、ロールモデルとなることが期待される。

## 期待する点

- 研究体制の持続性を高めるためには、構想されている大学院強化策も含めたガバナンス改革の成功が必須であり、学長のリーダーシップによる実現を期待したい。

## 平成 27 年度フォローアップ結果コメントに対する事業の課題と展望

## 1. 学長リーダーシップに基づく事業展開を加速するための組織体制の強化

「全体を通じた所見」で指摘されている小規模大学としての機動力を発揮して、学長のリーダーシップによる事業展開を更に加速する。このため、H26. 2. 1 に設置した研究推進機構を発展的に改組して機能別に強化し、学長直下に「研究戦略統括室（仮称）」、「国際戦略室（仮称）」および「男女共同参画・ダイバーシティ戦略室（仮称）」を設置する組織整備案を策定中である。

これは、当初の構想調書における年次計画「H27 年度：研究推進機構の運営等に関する中間評価」、「H28 年度：前年度の中間評価に基づく研究推進機構の改善実行」に基づき実施するものである。その他、学長のリーダーシップの確立を支援するための「IR 室」の新設やコンプライアンス関連部署の再編とも併せて、平成 28 年度中に組織整備案を策定する。

この組織整備により、これまで研究推進機構研究推進センター研究企画室に配置されていた URA を、学長直下の「研究戦略統括室（仮称）」に一元配置する。URA が新たに設置する「IR 室」と緊密に連携することにより、学長のリーダーシップを確立するための IR 機能を大幅に強化する。また、URA の情報分析機能を強化する目的で新規に URA を公募する。

## 2. 「ネットワーク型 URA」としての活動展開

「電気通信大学の研究力強化と研究企画室の役割」（H26. 7. 2 拡大役員会決定）に基づき、URA は原則チーム制により業務を遂行し、学内関連部署との連携・協働などの方針に基づいて活動してきた。平成 28 年度からは、チーム制による業務運営をより効率的に行えるように、URA の専門性を活かした役割分担制も導入することにした。

研究企画室では週 1 回の定例会議の他、テーマ別の URA 勉強会であるワークショップ、学内外の有識者を囲んで質疑応答するフォーラム、異分野の研究者・研究補助者や事務職員と URA の交流の場である UEC コミュニケーションサロンなど、各種の研修プログラムを通じて継続的に URA のスキルアップを図っている。

「ネットワーク型 URA」を具現化するものとして、上記のフォーラムを他機関に所属する URA 等にも開放しており、これにより、参加機関の URA との組織的な交流が促進されている。

上記の研修プログラムを通じた URA 同士の交流を、機関の枠を超えた研究者間の交流へと発展させることを目指しており、その成果として異分野融合プロジェクトの立ち上げを検討している。具体的には複数の機関での医工連携研究プロジェクトの立ち上げを目指して機関同士の「学術交流協定」の締結を見込んでいる。

## 3. 「ネットワーク型 URA」の普及・定着に向けた取組構想

上記のネットワーク型 URA としての活動実績及び今後の見通しを踏まえ、URA の交流を契機とした新たな価値創造を促進する『場』として、「ネットワーク型 URA 価値創造プラットフォーム（仮称）」構想を立案中である。

これは、以下に記すように、「Real Network」「Virtual Network」の 2 つのコンセプトからなるもので、「『繋ぐ』機能による新たな価値創造を目指す URA 人材」のための「職種と組織を超えたボーダレスでゆるやかな連携の場」として、平成 29 年度の立ち上げを目指している。

<Real Network>

「UEC/URA ネットワークオフィス（仮称）」

- ① 電通大 100 周年キャンパスに平成 29 年 3 月建設予定の UEC アライアンスセンター内に、ネットワーク参加者が利用できる共同オフィスを設置。
- ② 実務での課題やノウハウの共有を行う研究会や URA の資質向上に資するセミナー等を定期的（月一回程度）に開催。

<Virtual Network>

- ③ SNS による継続的な情報交換
- ④ ネットワーク型 URA に関する様々な情報発信サイトを開設
  - ・ URA の成果事例：ネットワーク参加者から成果事例を随時収集・掲載
  - ・ 合同セミナー等のイベント案内を掲載
- ⑤ 会員向けにメールで情報配信

## 4. 大学院強化策を含めたガバナンス改革の進捗

「期待する点」において言及されている学長リーダーシップによる大学院強化策を含めたガバナンス改革については、当初の計画どおり、H28. 4 に既存の 1 学部・2 研究科を 1 学域（学部）・1 研究科に統合する改組再編を行った。学部・研究科組織の一元化に併せて上記 1 に掲げる学長のリーダーシップの確立を支援する組織を整備し、ガバナンス改革を促進することとしている。

## 研究大学強化促進事業推進委員会コメント

- 展望に沿った着実な取組と今後の展開を期待する。